

No. 16

キネシオロジー研究懇談会通信



キネシオロジー研究懇談会のお知らせ

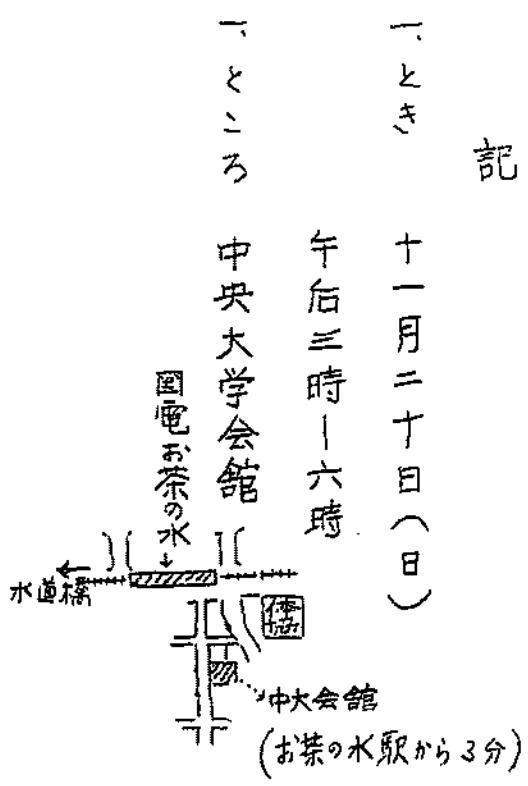
一とキ
十一月二十日(日)
午後三時一六時
記

皆さんのご参加を期待いたします。

た。

キネシオロジー研究懇談会の皆さん！キネシオロジーの各領域で、地道な研究をすすめてふられることと存じます。

昨年、体育学会のとき行なわれたキネシオロジー研究懇談会で、「来年は、学会の前日にでも、具体的な問題について研究懇談会を開き、田嶺の研究の交流をしよう」という要望がありました。



たいへん興味ます。

いろいろの運動の記録法を検討して、その分析の方についても問題を考えてみ

口 筋電図をいかに使つたか

宮畑わびる

キネシオロジーの研究に筋電図法、
使われていますが、その使用上の問題に
ついて経験を交流したいと思います。

ハ その他 持ち寄り

なが・キネシオロジー研究がよび研究
会の今後のすゝめ方についても話し合
いたいと思います。

一 会費 100円

会場の都合もありますので、ご出席の方
は折返し、葉書で、東京都文京区・東京
大学教育学部 猪飼研究室 気付 キネ研
あくつか知らせ下さい。

「いろいろと引き受けておきながら、何と
も申訳ない仕末でした。東京の例会は、
正木君らが熱心に世話を下され、六月
まで順調でした。夏休み中の会を私が世
話する予定のところ、これも失敗。この
時は高木先生に来ていただきたい希望で
したが「論文執筆」等のためだめ。ただ
し、その論文、この便りがお手許にとど
く頃には、もう京大教授会の審査をパス
しているはず。おめでとう存じます。
(一九六〇・一一・六)

2
3
6

No.17
1960.
11.22.

ホキミオロジー研究会通信

* ホキミオロジー研究懇談会

昨日、研究懇談会での西澤望により、

金城、山田（=十日）申大全館で開催。

四十名近い盛況。

薄金著述のうち話題を発表の前にきけ

うるさくね。何としても、中がいいな。

② テーマ

動作分析はどうすべきか。

映画などに用ひかかる？
写真をいかに用ひかかる？ 軌跡法は？

* 写真から重りを求める時の工夫
からなる重要な关节にパンソーローダーと
をつけておくと便利。

* カメラ

ニコンで 60mm、90mm だが、 $1/100$ 秒まで

うつり、時間正確なロボット（一名モーター）

センスの動作分析を金城、草尾大の
太さがやつた。重りを求める、その軌跡

がセンスのやさしさもつかしきを明らかに
しておいた。

（写真）

討論のうちの部分ではなく、重りを求める
動作の推理分析を試みる。

1) といけないといふものは何か。
・ダンスでバラースのとれどもこれは
美しいとわれている。バラースのとれ
どもためれば、重りの位置をどうし
ても明らかにする必要がある。

・ダンスでバラースのとれどもこれは
美しいとわれている。バラースのとれ

卷之三

其後上曰：「吾聞之，「知者不惑，仁者不憂，勇者不
懼。」」

此圖為一張由英國攝影師所拍攝之照片，其上印有「英國攝影師」之字樣。

卷之三

此後又復歸故山

2

卷之三

二、場合の用語とその意味

卷之三

“They seal Education in the same method.”

卷之三

二月某日未申酉方癸卯。卓大鈞奉

卷之三

卷之三

次第にその跡にそれをいふものがある。

得不外乎爲其心之本體，而心體之中，又以「仁」爲體。仁者，天地萬物之全體也。故曰：「仁者，人也。」

得不外乎爲其心之本體，而心體之中，又以「仁」爲最。故曰：「仁者，人也。」

○ 11月2日 気温20度 晴

① テーマ：助詞回文の利用

○ 11月3日 气温20度 晴
助詞回文の利用

* 記録法

○ 11月4日 气温20度 晴

○ 11月5日 气温20度 晴

○ 11月6日 气温20度 晴

○ 11月7日 气温20度 晴

○ 11月8日 气温20度 晴

○ 11月9日 气温20度 晴

○ 11月10日 气温20度 晴

○ 11月11日 气温20度 晴

○ 11月12日 气温20度 晴

○ 11月13日 气温20度 晴

○ 11月14日 气温20度 晴

○ 11月15日 气温20度 晴

○ 11月16日 气温20度 晴

○ 11月17日 气温20度 晴

○ 11月18日 气温20度 晴

留題

○ 11月19日 气温20度 晴

記録法基礎研究室

留題

P.4

此本大一冊子，紙墨甚佳，筆法亦極工，可謂集宋人之大成者也。

。筆大驚訝之。
細細看同上。收縮

十一月二十日 体調甚悪、懶食で寒氣入る。
設置規範案が一々決まりました。
研究の交換、往復9回の一大因縁補助金を
乞ひました。

Wilmot, Wm. S., 1819-1898. *Letters of Wm. S. Wilmot*. - 2 vols.

大勢の者で、助電圓は電車の運転手の爲め、全く筋電圓を考へてゐる。この考へ方によると、筋電圓は、筋肉の運動の度合と、筋肉の活動の度合とに、密接な関係がある。

故其後之士，雖有過庭，亦復追慕之。

江戸物語の後編の大半が向原とその弟子で

卷之三

卷之三

大命キテ御とケの官殿が居る

（七）會計的統計學

(中華人民共和國)

正月二日
住新宿西口ヒルタニビル
（本店）
兼行販售者　吉川　國雄
昭和五年十一月廿一日
新行
通緒免車票都支那日本寫真
東大藏有此一書圖書
乙下之二
乙下之二

兼行責任者 官印 越後守
昭和三年十一月三日自願行
印之印 一七〇丁

20
30
40
50

キネシオロジー研究会通信

NO.18

1961.4

編集先 漢文部省本監事室
東京都文京区本郷二丁目三番三号
(三)西田義典

編集 岩瀬 聰
岩瀬 虛美

日本語
昭和36年4月20日發行

△例会案内△

- とまき 東大教育学部会議室
- 主催者 東大教育学部会議室
(東京・本郷・駒門前の連絡事務)
- わだこ キネ研の活動方針について
具体的なフランセたこと。

等

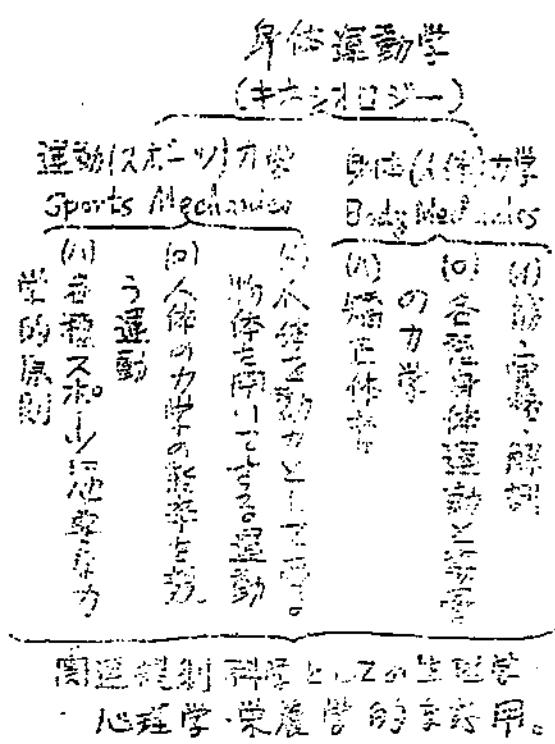
△前回の報告△

- ある三月十五日に東大教育学部の会議室で
キネ研に半日以内とおもていう案を持ちよ
りました。今までのまゝに、ひとの話を聞
こうといふばかりではダメ切れといふこと
もあるし、どうしても行き詰つてしまふと
いうわけで、二の際もつと積極的な研究
する金子と腹をさせようということに話し
合ひがすゝ計画した。具体的には、研究の
テーマに沿つて会の中にいくつかスループ
をつくり、専門家もおいて、どのスループ
におけるリーダーシップをとつてもうあう

一 説題

○私はキネシオロジー首次のうに概念達

定した。以下に示す。



私が人体力学における運動力としての人体の力学的研究を生理的、心理学的に行なう必要があり、人体自体に欠陥のある場合には矯正的作用も当然必要となりますが、日本人の体质改善とか体力增强と云ふことは、必ずしも運動力に欠けたところが原因で考察すべきだと思われます。各種スポーツには技術に必要な力学があります一一の力学原則を

行なうことが、はじめて記録の上でも格段や走、跳びなど基本的能力にあらじ早起できると思います。これら今野の力学的諸事項を心理学・生理学・栄養学等の立場から検討し、適用することが身体運動學の目的であると、いう考え方なんですが、皆様の専門知識を頼ら次第です。このあたりではつまづきりもう一度我々の対象とするところの研究の外延と内包とをほんのりしてあらじ各自の特色がどこで生き、どの部分で貢献できるかを明瞭にしておいて他擧があると思ひます。今私が感じてゐることは、各種スポーツ技術のプロセスメカニクスを早急に仮設しておくること思ひます。この部分が特に体育科指導にも「一チанс」にも必要と思う次第です。どうぞ皆意見を聞かせて下さる。(都立大・飯塚)

○例会の講究結果(発表の概要)結構まとまりました。今後の活動について提案しますと、動作の各瞬間ににおける各部分の受ける力の

P. 3.

簡単測定法あるいはその器具の作成。
例えば、腕立て前方輪回の腕の筋肉。腕上げ
のけりの強度と筋の筋肉過負担をきたすような
方法をも検討されています。(新潟佐渡初茂
高校・金川・鶴)

○水泳について、筋肉もつともは手筋肉を叫

ぶれでいぢりには

やはり筋肉筋力も

つくふとこう脚筋

である。それに

はサーキュレーター

ニス京もは五カ

年手筋肉をうがう

しむし筋肉をして

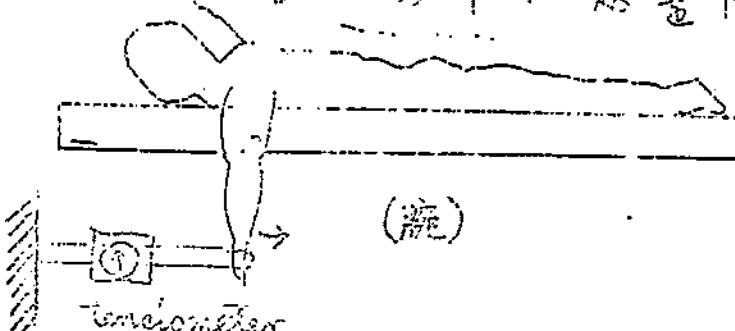
さうにまつて二

つがともくらげ筋

要もつて二と

は腰ぐあへとは

ならまう。



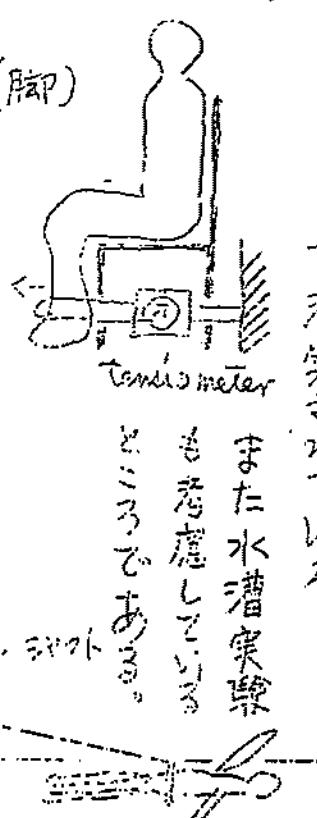
〈水泳の筋肉測定法〉

いわゆる筋肉筋力。インアーフがある。今最も食
指を動かしているのは、この筋力とスルード
との関連である。そこから
③陸上で筋力を測定する
④水中で筋力を測定する
とこうこと試みている。
推進力は筋肉筋力を考慮して計算
で考慮されている。

また水槽実験

も考慮して計算

ところである。



〈水泳の筋肉測定法〉

次に幹事会としての意見のテークに回し
ては、生理学部会が開会となりて、あらかじ
め「ひろき」にありますとされたる提案
を次第くわしく検討され原案と前段案間に分
け、ついで「シニシオロジムのテーマについ
てのお詫びされた。結局、テーマの一般性
やキネシオロジーの研究領域、あるいは生
理学部会との関連性がうりつて、「瞬発力

について」と「技術とキネシオロジー」と
いう二つのテーマに落着いた。これの最
終的な決定は、生理学部会とも話し合
いの上決定することになつた。これが決
定しだい、幹会までにある程度のデータ
が集められるだらうという意欲的な見
解をもつ人が多かつた。

本会は盛会であつた。これは出席者の
すべての方々が認められてゐると思う。
夏休み前の会合については、各専門分
野で会合をもつようにして、全体での
会合はおそらくもないだろう。と
いう意見が多かつた。

P5.

ここで全体会議が終り、3時45分)、各グ
ループ等の連絡・討議に入る。この結果は
追って報告されるであろう。

その後(11月25日(日))、生理学部会の東
京地区の会合があり、今年の秋の學會の
シンポジウムの題目や、キネシオロジー部
会との共催についての討論があつた。
その結果、題目を

技術と筋力

にし、キネシオロジー部会と共にしたい
といふことになつた。

キネ研で書記の役立つめたのはこれが
はじめてでしたので、表面的な報告に終始
し、会の本質をつりていないのでないか、と
いうことが心配です。もつと多くの具体的な
重要なことが討議されていたと思ひますが
筆記者の専門分野とは少し異なる分野
の会合なので、十分には眞実を伝えること
ができなかつたかもしれません。

書記の感想としては、できる限りグルー

アのメンバーがおりまして、共同研究に早く入つたり、一とができるようにしたいものだ、ということがあります。もちろん多くの人が多くの他の仕事をもつて忙しく、興味のある研究に十分な時間費ることができないが、まことに、生活時間が競合してしまって、能率的にできることはできないと思われると思われる。

もう一つ、常に手に持つことは、日本シオジーライブ研究における神経生理学的側面からするロードマップが裏面に出されかつたことです。もちろん研究の基づかしたものあります。

(石川龍、鶴谷、鶴見謹補)

◎ 次の例会日は追って開道知りたします。
住新の変更額と会費(年額200円)の納入は必ずお早めにお願いします。
身边でお預りください。何でもか
キに書いざる送り下さい。

○ タループ便り

各スループのその後の経過については、次号に詳しく述べます。

タループのメンバーは、同封の別紙を拂覽下さい。

尚、新しいタループの世話をござりました。

- 球技タループ (飯冢鉄雄)
- 格技タループ (松本英三)

山田良樹
(日体大)

タループ・メンバー一覧追加

- 体操タループ——横田弘道(慶知・赤羽根小)
- 球技タループ——丹羽健市(大阪学大)・山本隆久(東大)・神田順治(東大)・宗内徳

行(日体大)

- 姿勢タループ——渡辺俊男(お茶の水大)
- 格技タループ——飯田顕男(両口高)
- ダンス・タループ——土谷澄(奈良女大)

○ 赤便り

競走馬をもつ激戦が現の頃も大変

暑くありますまいりました、湿度が高いう

ので、馬上馬のものです。毎日、馬房で馬房で馬

を拭き、入浴をさせたり、シルクマントラップ

水波の下さらの馬を洗浄のためせんじ、腕

を回復せしむれままでにあつて、馬房、武

庫の内装ある時、馬も馬車も馬車

馬車は七日半ほど立たず、馬房も

さて、午後一時から三時まで、馬房も

通しては、馬房の方の馬房を馬房方に放

馬房を馬房してくる次第です。私は、今、

親と子の身体発育過程において、離

格直通して身体運動の習慣養成が父

父の馬房で、馬房と馬房と馬房と馬房と馬房

と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房

と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房

と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房

と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房

と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房と馬房

まではアタリアカリませんが……。
（オ、馬、競馬まで。

（著者・藤谷高志・奥川直助）

日本体育会第2回大会のシンボルマーク
は、キネシオロジー・サッカーフットサル会共同で
開催し

日本体育会第2回大会のシンボルマーク
は、キネシオロジー・サッカーフットサル会共同で
開催し

競馬のデータ

技術と筋力

会員登録
キネシオロジー

松井秀治

猪飼道史・石河利寛・
生理

松井秀治

松井秀治

ひろば

NO. 19

1961.5

ひろば 第19号 昭和36年5月29日発行

代表 宮畑 虎彦
編集 猪飼 道夫

連絡先 東京都文京区本富士町
東京大学教育学部体育学研究室
電話 九二一-二二二一 内線三四三二番

キネシオロジー研究会 通信

「ひろば」を討論の場に

前号の「ひろば」で紹介されたように、キネ研の活動を、小久ルーフによる継続的研究を中心として推進しようということになつた。

キネ研究会の当初から、東京では、毎月一回会合し、だれかにお願いして研究發表やその他の話題を提供していただき、「一年ぐらには、実技を見学する」とに重点があがれていた。

ところが、会の活動に「中だるみ」の徵が見えてきたので、昨年秋の会に、会員の再編成をし、それをきっかけに、活動の組織をつくつて小久ルーフの研究活動をすることに話がまとまつたのである。今までに提議されてくるものに加えて、みなさんから、さらに新しい研究タスクの提案されることを期待している。

これから「ひろば」のことであるが、ちょうど折よく前号に飯塚氏が「話題」を提供して下さつた。あの話題を中心にして、次号には、みんなの意見がいただきたい。どうすれば、ほんとうの「ひろば」ができる。体育の世界では「ご意見交換」ばかり多くて、「お返し」がない。もつと素直に意見に討論しなければダメだと思う。われわれは、學会の中で最初のタスク、キネ研を結成した。「ひろば」を討論の場にして、体育界に新風を巻き起したいものである。

宮畑 虎彦

○ 水泳スクール（世話人：宮畠・宮下）

近年、世界の一般的傾向として水泳能力向上のために陸上トレーニングの必要性が叫ばれてゐるが、それに對して、わが国ではまだ科學的裏づけがなされていない。そこで、その第一歩として、水泳スクールでは、選手たちの体力、特に筋力の実体をつかみ、今後の指導方針の基礎にしようとした。

ちょうど東京オリンピック大会の候補選手と目される高校生を主体とした選手の合宿が三月末から四月にかけて行なわれた。この機会に指導目標達成のための一要素として、彼らの体力、特に筋力に関する基本的調査を行なつて、今後の指導方法を確立するための基礎固めの資料とした。比較資料として、今年来日したオーストラリアの若ハ選手たちにも同様の調査を行なつた。今回は初めてであり、確定的な結論を出すには到らないが、次のことは推論できよう。

○ オーストラリア選手について

日本選手間では筋力と牽引力にかなりの相関が現われてゐる。これをオーストラリア選手との比較なしに考えるならば、筋力を高めれば牽引力も高まることが推測できる。またオーストラリア選手と比較するならば、現在の筋力で、より強ハ牽引力を發揮できる可能性があることも推測できる。

○ 今後の問題

次には筋力と牽引力との比較に加えて、水中牽引力と水泳スピードの關係を明らかにする必要がある。特に自動記録器を使用し、短距離の選手は一分間の力の和、長距離とともに測定経験の差といふことが考えら

れる。またオーストラリア選手の筋力が少ないことは、測定に不慣れということがほんた、腕脚の長さの差によると思われる。しかし非常によく筋力を、水中で使用していけるとも推測できる。

は四分間の力の和を測定することが必要である。

二の二とから、成長期にある高校生の指導目標を見出す一つの手段になると考えられる。さらには、筋力も最大筋力のみならず、筋持久力と水泳能力を追求する必要がある。二の場合、短距離では最大筋力の $\frac{1}{2}$ 程度の重量で一分間の持久力、長距離では最大筋力の $\frac{1}{3}$ 程度の重量での五～一〇分の持久力が水泳能力と関係するのではないかと思われる。

(宮下 充正)

○走跳投久ループ(世話人 金原)

陸上競技は、人間の基礎的運動能力を

競う運動で、陸上競技についての基礎的な研究は、広く他の運動にも役立つであろう。

陸上競技の個々の種目には、それ各自独自の問題がいろいろと考えられるが、まず、次のような基礎的な問題から手をつけていくのが、よいようだ。

一、走に関する研究

- (1) 走における筋の働きの吟味
- (2) 早く疾走するのに必要な資質の分析
- (3) 疾走フォームの分析

二、跳に関する研究

- (1) 各種の運動における跳躍現象の調査。

三、跳躍における筋の働きの吟味

- (2) 跳躍にすぐれるための資質の分析。
- (3) 跳躍力にすぐれるための資質の分析。
- (4) 跳躍フォームの分析。
- (5) 跳躍についても、同じような考え方で研究をはじめたらよいと思う。

(金原 勇)

○姿勢久ループ(世話人 正木・浅見高)

姿勢久ループでの話し合ひの材料にと、今までの姿勢研究の課題を、私なりにまとめてみました。

一、姿勢の実態についての研究
どんな姿勢を、私たちはとつているのだろうか、と云ふことを明らかにしていくこと

が研究の出発点であるように思います。これにはコンフォメーティアによる研究、姿勢の生態の調査研究などがあります。また、一方では、姿勢教育という観点から、姿勢の評価・判定の調査もかなりあります。

なわれるやうだと思ります。
今までの評価の基準に対する科学的な検討をとりあえずやることから、研究をするつめりつたらと思ります。

(正木 健雄)

○体操スループ(世話人:浜田)

キネシオロジー研究会のスループとしての体操班は、徒手体操のほかに器械体操をも、研究対象に含みます。

(浜田 靖一)

○滑走タルーフ(世話人:佐藤・山本)

姿勢を固定価値(たいじゆうけい)とか思ひかかるのでとらえず、さもおまな事態におけるからだの各部分の配置の仕方(技術)として姿勢をとらえ、それをその姿勢をとつたときのからだの状態を分析し、それがあの姿勢をつらぬく法則性を抽出していく必要があるようだ思います。

三、姿勢(技術)の評価研究

二で明らかにした姿勢の法則性が、それがその事態をうまく適用されていいのかどうかというところから姿勢の評価は行

○体操タルトフ(統)

くとも現行のものではない。手筋のつく
のがあたりまえである。

スケルツがある体操競技と、いわゆる、徒
手体操とを同じ「体操」という分類一つの
中で種々対象に付すことは若干の事
うであります。本筋が、この筋道の手筋三才
ロジーといふが、いはば、社説をば
要す。本筋道に現在あることは忘し
かねぬ。

次に各該体操のすであるが、これは
少く遠く、一、体操競技を日本人がはじめて
から三四年、日本人ほつては器械の特
徴と日本人の身体の特徴をマッチさせ
ることに一極の大功をあげた。

筆者によると人々の手筋で少しようれす
き、其筋のやうなよさが物から多くなつて
ます。筆者によると、手筋ややすさを魂
い薄すには、おうしても手筋三才ロジ
ーに大馬鹿野郎に意る度い。徒手体操は、
規範と倫理と多えたもので、身体運動
動作や整理研究との結びつきを裏づけ
にあつて、この行方にはやがて始まづ
りを地獄しなければならぬい跡がくる。
科学や生物学の上に立つて組み立たられ
た云々という、うなづきがついてあり、
そのうちの音階は、筆者によれば、手筋
は實在するに體材と合ひ手筋は、手筋
をもつてゐる。

こう書かれてはとて思つてゐる。
といふ人の教い方タルトフの上筋道筋道に
走つて來てしまつた。しかし彼の科學も
体操も、こゝにうすづくものである。

口ジーのメカニク、東洋やき箇所を考え
てみると、こうへへ考ふられるが、現代
の理法が實際は必ずつけて、ある程度
可能性の考ふられるのは体操で行なう
事より體道に、この筋筋道筋道を弱め因

でどちらかのことを面白がり、あきらめが
時にあがる價格や仕事の実績等をレン
トボンで与えるに至り、それがから諒解で
あります。

筆者もアスリートとしてケージを舞台で
躍馬や手行舞などの腰切りや、手のつき
の腰、腰車・角慶などと比較してお
いた。毎年度二三の三つ盤手をつける事
とが出来たが、体格のタル一方では成功
だと感う。筆者のジヤンタルの腰をに冠
感を感ひながらもとりあえず手をつけ
てみたい面倒な事だ。

(後編)

前略

キネシオロジー研究会は、一月の五月二十六日附をもつて、日本体育學會の専門分科会として承認されました。従つて、今秋予定される体育學會（於名古屋）では、キネシオロジーに関するシンポジウムの主催に當ることとなります。當会としては、それに具体的な討論資料をもつて講演を必要があると思われますので、ヤシオアタツでシンポジウムの演題について「食」、お考文をお聞かせ願えれば、と存じます。葉書を同封いたしますので、具体的提案なりお意見なりをおきかせ下さい、適宣備註入の上、折返しお返事の程、お願ひ申上します。

お寄せ頂いた原稿は、次の「ひろば」に掲載して、広く全国の方々にディスカッションの資料として御利用頂くつもりです。尚、次回例会は、追つて開通知いたしますが、六月二十九日（木）午五時半より東大教育學部で行ないます。「ひろば」はその前に発行いたしますので、お忙しいところを恐縮ですが、六月十五日までにお投函下さいますよ、と頼んでお申上します。

六月七日

「ひろば」編集部

25
26
27

NO. 20

1961.6.

昭和36年6月20日発行
第10号

キネシオロジー研究会通信

編集
連絡先
東京都文京区本郷二丁目三番三号
電話九二一ニニ一
代表
吉澤虎彦
猪飼道夫

シンポジウム雑感

キネ研も二十三回も開催してきたが、まだ、道は険しいようだ。それは、研究の対象が複雑なことと目が高く、高いせいだろう。

しかし、だんだんに研究の内容が多くなってきてきたし、方法もすこぶるきたうで、なかなか樂しみである。

「」とこの秋の体育学年では、またキネ研のメンバーが顔を合わせて、一年間の苦心のあとを語り合うことができる。昨年のような前夜の集いも、もちたいものの一つである。学会のシンポジウムは、みんなが関心の本かいものが欲しい。それがシンポジウムをするばらしくする第一條件だと思う。

やせられたちの生活はあまりにも忙しい。誰が忙と云ふのか知らなリが。時にはレジスタンスを示して、自分たちの時間をうぐり、めぐりあえたものである。/おひらく/おまかせ

編集
猪
道
夫

○シンポジウムに対する提案

・体育系系にあけるキネシオロジーの貢献。

(防衛大・池内八郎)

……役に立つと大いに信じてゐる人、大した二とないと冷やかに見ていける人。
後者も相当いるようですから。

(学芸大・宮畠虎彦)

。「バネがある」ということ。

キネシオロジー「うしくないテーマかも知れませんが、生理との接点の問題として、キネ研で当初より問題とされながら、具体的なデータをもとにて討論されてきていいなり問題です。しかし、これならみんなの関心もあり、「これから集中的にとりくめばデータが出そうな問題だ」と思っています。

(日体大・正木健雄)

・体力と技術の相関関係について。

(関西大・大島鎌吉)

とりあはて、どの種目でキネシオロジーの立場から討論するとどう問題は如何でしょうか。

(防衛大・池内八郎)

・スポーツ・トレーニングとキネシオロジー
「うりうりテーマは如何でしょうか。
キネシオロジーを実用化してもう少し効果的なトレーニングをしたいのです。

(教育大・松延博)

・原理的な面と、具体的な実験的面とから、次の二テーマについて述べます。

体育学におけるキネシオロジーの位置づけ。

最近になり、目標・方法等がはつきりしてきたようであるが、まだ完全に理解され、我々自身のものになりきつていな感がある。そこで外形的研究(形態的測定・力的関係等の問題)と内面的研究(循環機能・呼吸機能・心電図等)の二方向から、体育学の方向への手段を過去の実験例から求めて、これを古を解明することを検討する。

・体育の基本的種目である陸上競技の中から、走・跳・投といった種目を

実験測定値の取り扱いについて

因になつているかを追求するため

の測定方法

につけて充分データ収集をし、相互に協力して正しくデータを集め体制をとることが重要かと考えます。

(京大・高木公三郎)

人体に関する実験測定値はたいへん複雑である。ある面ではマイクロメーターで求めたような精度の高い計測値が得られるかと思うとある面では全く粗雑な値しか得られない。過去の各種のデータを例にあげ、これらの値をいかに取り扱うか、関係づけていくことができるか、また、この誤差の取り扱いの範囲等を検討して、今後の実験研究をより有意義なものにしていただきたい。

(専修大・山本久也、武)

。直接役に立つ研究問題のとうえ方、と、誰にでもできるやさしい研究法。
(教育大・金原 勇)

の面で、ランボリンや飛込みにおける、空間で新たに回転を起す動作の研究を行なっています關係上、基本的に新たな運動を起し得ないヒントで、この概念に反する力学上の基礎に属する問題なので、もし取り上げられるようでしたら、と希望もしますが、もつと研究資料を作つてからでもよいとも考えていますので、滑走班などで何が問題が出るようでしたら、それに協力したいと存じます。

動作分析の方法

と、同時に、

いかなる力がその運動を起す原

(天理大・西山 実幾)

○スポーツ活動の向上とキネシオロジー

リラクス如何でしようか。キネシオロジーは如何にスポーツ活動に貢献していいか、どう意です。

(祐道六・加藤芳雄)

私の今の希望では、(1)食の形 (2)姿勢の形 (3)運動の形。式の研究会をしてみたりと思つておきま。また私の興味は各々の姿勢における呼吸の難易、最もリラックス出来る姿勢についての考慮であります。

(お茶の水女大・渡辺俊男)

○持久力と持久性について

(東大・江橋慎田郎)

。総説的なものは避け実験的なものを取り扱うこと。

技術のキネシオロジー的基礎

リラクスはどうでしょうか。

(東大・石河利寛)

○瞬発力について

筋力がタイミングを捕つとき、二水スプリントの能力になつたり、ジャンプの能

力になつたりする。りわやる「瞬発力」というものは、これに近いものであり、キネシオロジーと生理学との境界線だと想う。ゆづく語したものの一つである。

(東大・猪飼道夫)

。キネシオロジーの研究も、問題の所をさぐつていた時期を終つて、それ以後の具体的な、そしてまた問題毎に研究が積み重ねられる時期に来てゐると思ひます。今年は早めに一つ三つの問題をきめて、これを十一月の学会までにそれを手がけられる研究方法を通して研究してみてはどうかと思ひます。

問題としては、各種の筋力測定が行なわれていますが、これらについての測定法的には、また働いている筋について、また力学的な構成といつた面について、等、筋力測定そのものについてのキネシオロジー的研究を進めてみたは、と思ひます。すこし問題は、先に分けられた各ルーブ毎に具体的な運動内容に關係あるものでも良いと思ひます。

◀前回の報告◀

○去る五月八日(月)に東京大学教育学部の会議室で、キネ研の今後の活動方針を話し合いました。

キネ研で実際に研究活動をするめていく母体として、従来の「水泳」「走跳」「競歩」「滑走」という小久ルーフに「体操」が入ることから(日大)から提案され、それが、研究テーマを具体化していくことになりました。

(別項参照)

○ついで宮畠先生から、水泳ルーフの研究状況について中間報告(別項水泳ルーフ参照)があり、日本とオーストラリアでは陸上では大差なくとも水に入ると格段の相違が生ずるのは一問題であるという話がありました。

更に水泳の実際を水中カメラで撮つて分析した結果について、例えば日本選手の場合は、ほとんどの腰に横搖れがなく水平になつたままであるのに反し、外国選手は

おへんが見えるほど胴を横に横搖れさせてゐる、とか、日本選手は腕の力が弱いので脚力だけに頼つてゐる、そのため外国選手みなに腹の下に水をかき込めるのは山中だけである、といふことでした。

○更に浅見(高)先生から姿勢ルーフについて、研究法の説明があり、スタティックなものを追求する方法——歩行、反射(頭反射・腰反射)あるいは脊柱弯曲といふ観点。ダイナミックなものも追求する方法——筋電図、体量配分計、ストレインゲージなどを使用して動きをとらえるという観点。と、いう話をしました。

○次に金原先生から走跳投ルーフのことは、つけて話があり、基本的な問題、例えは、体の前傾、リラックゼーション(以上走)跳の定義、筋力と跳躍力の関係(以上跳)なども取扱つてこいたりといふことでした。

○最後に、やはり研究をするための人の問題を解決するのが先決であろう、といふことになりキネ研のメンバーに、それを他の意向を往復ハガキで問いかせて

みることになりました。会費をお拂ひ込みのすには返信用ハガキを同封しましたので折返しお返事下さりますよう、またどの他の方も、会費とともに寄返事をお待ちしております。

○ さて実際の研究活動は、フルーフ毎に集まつて適宣進めていき、キネ研の例会では、各フルーフのトピックを集めしていくところになります。フルーフにつりての細かい事からは、各々世話人が担当していきます。

○ 次の例会は六月五日(日)午後五時三十分より東京大学教育学部会議室で行なります。ふるってお出で下さい。また、お題を申し上げます。

○ 住新の変更額と会費(年額二〇〇円)の納入は、出来るだけ早めにして下さい。
また、身近でお気づきのこと何でも、ハガキに書いてお送り下さい。

キネシオロジー研究会

例会案内

○とき 昭和36年6月5日(日)午後5時30分

○ところ 東京大学教育学部会議室

東京・本郷・赤門前の建物・二階

○かりひ 100円(夕食代)

○わたい キネ研の研究活動の方向を考える。

その後、各小グループに分れて、顔合わせを行ない、
実際の研究をすくめていく計画をたてる。

○その他○

当日、キネ研の名簿をお配りします。

会費を未納の方は100円(年額)をお納め下さい。

当日までに、自分がどのグループに属したりか、またどんな
グループを提案したいかお考え頂けますよう。